

平成29年度(第10回)国土交通大臣賞<循環のみち下水道賞>

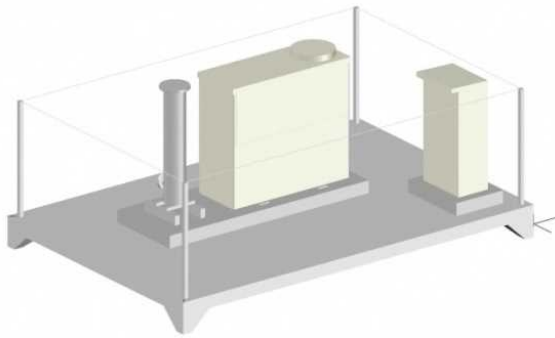
## イノベーション部門

応募事例名

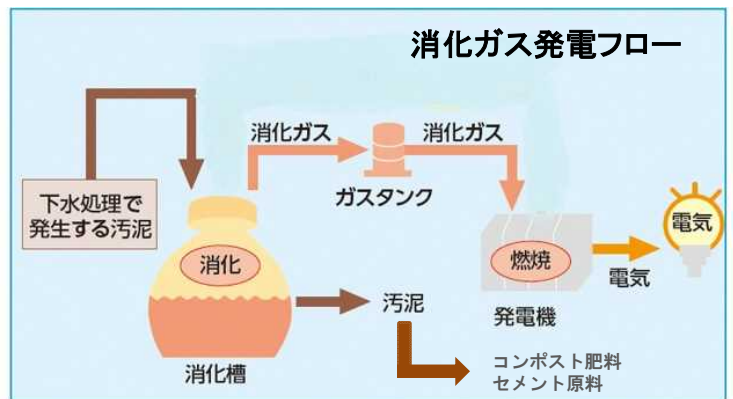
### ミニマムスケールでの消化ガス売ガス・発電事業のモデルケース

応募団体名)株式会社マルツ電波、越前市

## 応募事例の概要



消化ガス発電設備イメージ図



## PRポイント

越前市家久浄化センターでは、余剰ガスの有効利用が課題となっていました。そこで敷地内に25kW(ミニマムスケール)の消化ガス発電機を設置し、浄化センターから余剰となった消化ガスを購入し、発電に有効利用することで地球温暖化防止へ寄与します。従来、余剰となっていた消化ガスは燃焼して焼却処理されており、今回の事業により越前市は省エネばかりでなく創エネの事業として、ガス売却料と敷地使用料で収益を得、発電事業者であるマルツ電波は固定価格買取制度(FIT)を利用し20年間発電事業実施で収益を得ます。完成後には、見学会を開くなどで浄化センターのイメージアップにも繋がるものと考えており、また、停電対応型の発電機を用いる事で、災害時は専用コンセントを解放して地域の方に電力を供給することが可能です。